

114
A 4515

乙三之 疑問 答書



予千八百七十四年五月廿二日数箇ノ疑問ヲ記
 セル書面ヲ閣下ヨリ受取リシカ其書面ノ表紙
 皇帝陛下政府ノ心得ノ為メ外務省ノ法律相
 談人可成丈連カニ答ヲ為スコシト記シタリ然
 ルニ右書面ノ何人モ之ニ姓名ヲ署セス又日附
 フモ記スルナシ
 今予カ答ヲ為スノ道理ハ閣下ノ右書面ヲ予ニ
 渡シ給ヒシハ即チ予ニ右答ヲ為スコキヲ求メ
 給フ歟又ハ差留シ給フト省做シタルニ在レハ
 ナリ故ニ番号ノ順序ヲ追ヒ冗長ノ詞ヲ省キ精

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈



々尽力ニ以テ之ニ答フ

第一ノ問ニ之ヲ分テ二部ト為ス

第一 ベンガハ氏ヨリゼ子ラール、レゼンドル

ニ贈リシ書翰ニ「フラルモサ」ニ到ル可カラサル

差留ノ命令ナリト解ス可キヤ

答ヘテ曰ク右書翰ノ文詞ニ指揮命令ノ意アル

「明カニシテベンガハ氏ノ語氣ニ已レノ権柄

ヲ行フ人タルニ似テ戒ヲ加ヘ又ニ助言ヲ為ス

人ノ如クナラス然レモ其命令ニ「ゼ子ラール、レ

ゼンドル」ニ全ク「フラルモサ」蕃地ニ到ルヲ禁ス

ルニハ非ス「フラルモサ」ノ蕃地ト開化地トノ別

ナク總テ其島中ニ兵ヲ以テ到ルヲ禁スルニ在

第二 「ベンガハ氏」日本ノ末々支那ト戦ヲ交

エス且ツ「ゼ子ラール、レゼンドル」ノ突向人負ニ

附属セシ海軍又ハ陸軍ノ兵籍ニ入りタルヤ否

ヲ寫ト取調ヘサル前ニ右様ノ命令ヲ下スニ於

テ其理アリヤ

此問ニ予其意ヲ了解スル能ハスニテ蓋シ其意

ハ「ベンガハ氏」日本政府ニ對シテ右ノ理アリ

ヤト云フニ在リヤ又ハ「ベンガハ氏」ニ「ゼ子ラール

ル、レゼンドルニ對シテ右ノ理アリヤト云フニ
在リヤ、即チ更ニ之ヲ言ヘハ、コペンガ、ル氏、米利

堅ノ法律或ハ米國政府ノ特別ナル指令書ニ回
リ右様ノ命令ヲ下スノ權アリヤト云フニ在リ
ヤ

第一、コペンガ、ル氏、日本政府ニ對シテ右様ノ
命令ヲ下スノ理アリヤ

答ヘテ曰ク特別ノ條約ナク普通ナル萬國公法
ノ大理ニ依レハ、天皇陛下其戰ヲ交スルノ正理
アリト思ヘル時ハ支那ト戰フ氏又ハ其他何ル

ノ國ト戰フ氏其隨意タル可キト敢テ疑ナク他
國ヨリ之ニ舟ヲ故障ヲ述ブルノ權ナク又好意
ヲ以テ助言ヲ為スノ外之ニ干渉スルノ權ナ
シ

又右様ノ戰ニ於テハ、天皇陛下内國人ト外國人
トノ別ナク其領地内ニ在ル各人ヲ使用スルノ
權アルト敢テ疑ナク加之天皇陛下ハ外國人ヲ
其本國ヨリ招キテ戰闘ニ使用スルノ權アルト
猶平和ノ時使用スル為メ外國人ヲ招クノ權ア
ルト敢テ異ナルナシ

然レハ天皇陛下ハ中立ヲラント欲スル外國ノ
領内ニ於テ兵ヲ募ル可キ權ナク今此一事ニ付
キ米利堅論說ノ一適例ヲ舉グルニ千八百五十
四年及ヒ千八百五十五年ノ「クリメア」戰闘ニ使
用スル為メ英國ニ於テ所謂外國人兵隊「フレイ
ム」ト稱スル一隊ヲ募リシ時英國公使「グラム
プトン」氏及ヒ「ニユウヨルク」「ファイテデル」「フイア
」「シンシン」ナキ「三ヶ所」ニ在留セシ英國領事三
名「米利堅」國內ニ於テ兵ヲ募リ「ムンバ」「マコシ」及
ヒ「カナダ」ノ地ニ赴カシメタルニ「ヨリ」米利堅政

府之ヲ英國政府ニ論シテ方四名ノ職ヲ退カシ
メタリ然レハ「米利堅」ニ於テ「何人」タリハ外國
ニ到リテ戰ヲ為ス為メ自國ヲ去ラ「敢テ有罪
トセス」又然レハ「ミナラス」自己ノ隨意ニテ外國ニ
到リ戰ヲ為ス為メ自國ヲ去ラント欲スル者ヲ
運漕スルハ亦敢テ有罪ト為サス唯「米利堅」ノ外
國ニ對スル義務ナリト思想スル所ハ「米國」ノ現
ニ親睦ナル國人種人民ニ向ヒ戰フ可キ兵ヲ自
國ノ領地即チ管轄地内ニ於テ募集スルヲ禁ス
ルニ過キサルノミ而シテ其道理ハ甚ク明白ニ

レテ今之ヲ去フニ米國政府或國又ハ或人民ト
和親ヲ通スル^時自國ノ人民其統轄ノ下ニ在ル間
ハ其和親國ト戦ヒ又ハ其戦ニ助^カスルヲ許ルサ
ルニ在リトス
而シテ又萬國普通ノ公法ハ前文ニ記載セシ所
ノ如クナリト雖モ米利堅ト日本帝國トノ特別
ナル條約ニ目リ其公法ヲ稍々変易シタル其模
様ヲ左ニ記ス可シ
千八百五十八年第七月廿九日(即チ安政五年午
ノ六月十九日)ニ取結ビタル條約書第十條ニ日

本政府ハ米利堅ニ於テ學者海陸軍ノ士諸科ノ
職人並ニ船夫ヲ雇フニ隨意タル可シト云ヒ又
其雇入レタル各人ハ米國ヲ去ルニ隨意タル可
シト云ヘリ
諸其條約書ニ若シ右ノ文詞ノミヲ載セ其他ニ
記スル所アラサレハ海陸軍ノ士ヲ海陸軍ニ使
用スル為メ自由ニ之ヲ雇入ルモ毫モ差支ア
ルナク其海陸軍士ハ海又ハ陸ニ於テ戦フ為
スヲ其職分ト為ス可シト虽モ右條約書ニハ更
ニ詞ヲ添ヘテ曰ク米利堅親睦ノ國ト日本國

ト萬一戦争アル間ニ軍中制禁ノ品々米國ヨ
リ輸出ス可カラス又右ノ間ニ何人ニ限ラズ
海陸軍士ノ職分ヲ以テ事ヲ行フ為メ之ヲ
雇入ル可カラスト蓋シ日本政府ハ自己ノ
隨意ヲ以テ其当然有スル所ノ權利ヲ抛棄
シ米利堅親睦ノ國ト日本國ト萬一戦争アル
間ニ米國人ヲ雇入レ海陸軍士ノ職分ニ
於テ之ヲ使用ス可カラサル旨ヲ右條約書
中最終ノ文詞ニ定メタリ
予思ラック右條約書中最終ノ文ハ日本ノ

戦ヲ交エサル前ニ雇入レタル米國人ヲ海
陸軍士ノ職分ニ於テ使用スルヲ禁ミタル
ニ非ス然レ氏又日本ノ今將サニ準備ヲ為
ス戦ニ使用スル為メ米國ニ於テ米人ヲ
雇入ルハ縦令右條約書中最終ノ文詞
ト敢テ相違ハスト虽モ要スルニ其文意
ニ背キタル者ト云フ可シ
抑々日本ニ仕ヘ海陸軍士タル職分ヲ以
テ事ヲ行フ者ハ其生ナカラ米人タル歟
又ハ嘗テ外國ヨリ米國ノ籍ニ入リタル

歟 = 曰リ猶米人タルノ身分 = 至テ
ハ敢テ之ヲ失ナフナシト是トモ予
カ説ニテハ此類ノ人々ハ米國ノ管轄ヲ
受ケス又其保護ヲ被ルノ理ナク而シ
テ各國ノ人民米國ニ來リテ其戰ニ
從事シ又ハ米國人各國ノ戰ニ從事
シテ已レニ過チヲ殘サス其君長ニ
責ヲ蒙ラシメサル者又寡ナシト
セス然ルニ米國ノ戶籍ヲ保チ
テ日本ニ使用セラレモノ其雇

入ノ後ニ起リタル戰ニ於テ日本ノ為メ使用セ
ラル、時ハ已レニ過チ殘シ日本ニ責ヲ蒙ラシ
メサレヲ得サル所以ハ萬國普通ノ公法ニ據ル
ニ非ス千八百五十八年ノ條約ニ據ルニ非ス又
下ニ記スル米利堅中立ノ法ニ據ルニモ非ス唯
後文ニ考思ス可キ千八百六十年ノ法ニ據ル者
トス
千八百十八年四月二十日米國議院ノ決定セシ
法律ハ之ヲ名ケテ中立ノ法ト云ク而シ此法ノ
第一款ニ曰ク若シ米國人其領地或ハ管轄地内

ニ於テ米國ト相和スル外國君主、國邦、藩屬地、地
方、人民等、**ト**海陸ノ戦ヲ為ス、**ト**外國君主、國邦、
藩屬地、地方、人民等ニ仕フル職務ヲ引受クル
アル時ハ其者重罪ヲ犯シ二千弗ニ過キササル罰
金ヲ課セラレ且ツ三年ニ過キアル時間獄ニ繫
カル可シト又第二款ニ曰ク若シ米國人其領地
或ハ管轄地内ニ於テ兵士トナリ外國君主、國邦、
藩屬地、地方、人民等ニ仕ヘテ其兵籍ニ入り又ハ
軍艦、敵船、押捕ノ准許ヲ得タル船、敵船ヲ奪フ為
メ、**ト**艦装セシ私船等ニ乗込ム水夫トナリ外國君

主、**ト**國邦、藩屬地、地方、人民等ニ仕ヘテ其兵籍ニ入
ル^トアル時ハ其者重罪ヲ犯シ一千弗ニ過キサ
ル罰金ヲ課セラレ且ツ三年ニ過キササル時間獄
ニ繫カル可シト蓋シ右法律ノ所定ハ甚々泛博
ニシテ千八百十八年ノ法ヲ立テシ人ハ方今日
本ニ往スル米國人ニ付キ存在スルカ如キ景況
ニ注意シタル可シトハ思ハレス而シテ日本ニ往
スル米國人ハ米國ノ戸籍中ニ在ル間ハ條約書
ノ文詞ニ目リ米國ノ管轄 裁判權ノ行ハル内ニ
在ル者トス

然レモ日本ニ在ル米國人ハ其身米國ノ管轄
内ニ在リト雖モ制禁ノ所業ヲ米國ノ管轄内ニ
於テ行フタルニ非レハ敢テ千八百十八年ノ法
ニ背キシ罪ヲ犯シタル者ト為スコカラス譬ヘ
ハ佛蘭西又ハ日耳曼ニ在リシ米國人千八百七
十年ノ大戦ノ時佛國又ハ日國ノ兵籍中ニ入リ
シモ敢テ千八百十八年ノ法ニ背キシ罪ヲ犯シ
タル者ニ非ラ然ラハ即チ日本ノ領地内ニ在ル
米國人方今米國ト相和スル國民ニ向ヒ戰フ為
メ日本ノ兵籍ニ入リ又ハ其他ノ國ノ兵籍ニ入

ル時ハ如何曰ク予カ説ニテハ政ニ千八百十八
年ノ法ヲ犯セシ者ト為サス又假リニ日本國又
ハ其開港場ヲ米國ノ管轄内ニ在ル地ト想做サ
ハ同シク亦他ノ結約十四ヶ國ノ管轄内タル可
シ是レ蓋シ背理虚妄ノ論ニシテ人ハ二三ヶ國
ノ管轄ヲ受クルコトアル可シト雖モ土地ハ唯一
國ノ管轄ヲ受クルニ過キス故ニ予思ヘラズ千
八百十八年ノ立法者ノ管轄地内ニ於テト云ヘ
ル語ヲ用ヒシ其意ハ大洋ニ浮ヘル米國ノ船舶
又ハ米國ノ海陸軍ノ據有セシ外國ノ土地ヲ指

レ云フニ在ル可クシテ縱令米國、外國ト特別ノ
條約ヲ結ビテ其國ニ住スル米國人、身、体ヲ管轄
ス可キ權ヲ行フ、凡其管轄地ト云ハルハ敢テ其
外國ヲ指シタルニ非ルヤ必然タリ

千八百六十年六月廿二日米國議院其國ノ領事
ニ裁判權ヲ授與セシ外國條約ノ所定ヲ實際ニ
執行ス可キ為メ一ノ法ヲ決定シ其法ノ第二十
四款ハ支那、日本、暹羅、土耳其等ノ各國ニ在留ス
ル米國公使ノ事ニ管シ其文ニ曰ク公使ハ米國
人其本國ト相和スル國ニ向ヒ戰フ為メ右國々

支那、日本、暹羅、土耳其等ノ海陸軍ノ兵籍ニハリ又ハ其
耳其等ヲ云フ
國內ノ一部ニ向ヒ戰フ為メ他ノ一部ノ海陸軍
ノ兵籍ニ入ルヲ防制スル為メ各様ノ命令ヲ發
出スルノ權ヲ有シ若シ此權ヲ行フ為メ已ムコ
得サル時ハ當時其近傍ニ在ル米國ノ兵力ニ依
賴スルヲ得可シト
今此ニ注意ス可キハ右ノ法ノ主ト為ス所ハ防
制ニ在リテ責罰ニアラサルノ事ニシテ蓋シ此
法ヲ立テシ其眼目ハ千八百十八年ノ法ヲ支那
又ハ日本ニ在ル米國人ニ敢テ適用ス可シラス

後

ト思做セシ事ト當時米國ノ危険ヲ好ム輩殊ニ
ワード及ヒ「ブゼウイ」^二氏ノ如キハ支那ノ
政府ト太平王ノ賊徒トノ戦ニ干涉シ就中「ブル
ゼウイ」^二ハ或時ハ支那政府ヲ助ケ或時ハ太平王
ヲ助ケ表裏及復限リナキヲ制スル事トシ二事
ニ在ル可シ

予思ヘラツ右ノ法ニ據レハ「ビンガム」氏日本ノ
未タ支那ノ戦ヲ交エサル前ニ右様ノ命令ヲ下
シタルハ已レト「ゼ子ラール」^二セシトルトノ間ニ
在テハ其理アル可シ是レ蓋シ右法ノ眼目ハ米

米國人外國ノ兵籍ニ入ラサル計ニ之ノ差留ム
ルノ權ヲ公使ニ授與スルニ在ル「明カナレ
ナリ」
若シ「レゼンドル」氏既ニ日本ノ兵籍ニ入リタル
後ニ之ヲ差留ムル時ハ自然米國ノ權ト日本ノ
權ト直切ニ相抵觸スルニ至ル可シ故ニ公使ハ
其國人ノ日本ノ兵籍ニ入ルヲ強テ抑制スル為
メ已ムヲ得ス兵カヲ用フルニ至ラサル前ニ先
ツ其國人ノ日本ノ兵籍ニ入ラントスル意ヲ肯
無ク已レニ知ラサル可カラス

若シ現ニ其意アラヌ又ハ其意アルノ証明カナ
ラサレハ抑制、押留ヲ受クル米國人其公使處
置ヲ本國ノ裁判所ニ訴フ可ク又右米國人ハ其
好ム所ニ任カセ敢テ差留ノ命令ヲ顧ヒス公使
ヲシテ兵カラ用ビテ強テ之ヲ差留ムルニ至ラ
シムルモ亦其勝手ナリ
ベンガム氏其知り得タル所ニ據リゼ子ラール、
シゼントノ日本ニ仕ヘ兵ヲ以テフアルモサ
ニ赴カントスルハ即ケ所謂外國ニ向ヒ戦フ為
メ兵籍ニ入リタル人ノ部類中ニ在リト定メタ

ルハ自カラ其責ヲ已ニ擔任スル所ナリ
抑兵籍ニ入ルト云ヘル語ノ義意ハ獨リ法式ニ
循ヒ募兵ノ簿冊ニ姓名ヲ手署スル者又ハ將帥
ノ命ヲ遵守シテ之ニ順聴ス可キ海軍ノ誓言ヲ為
シタル者ノコトヲ指シ云フニ限リタル術語ノ意
ニハ非ス總テ其方法ノ如何ヲ論セス戦ヲ為ス
タメ發遣セシ兵ニ管保アル各人ヲモ亦指シ云
フノ意タル可クシテ譬ヘハ醫師又ハ料理人ノ
如キモ出兵ノ目的ヲ知リテ之ヲ違スルニ助カ
スレ為メ兵隊中ニ加ハル時ハ前ニ記セシ法ノ

意ニ於テハ即チ兵籍ニ入リシ者ト称ス可キヲ
銃ヲ肩ニシテ兵隊中ニ加ハル戰士ト敢テ異ナ
ルナシ

右ノ道理ニ目リ嘗テ千八百六十六年米國人ニ
名中一名ハ僧、一名ハ新聞報告人米國ヨリカナ
ダヲ侵セシ「フイニ正ニ隊天主教ヲ主持中ニ加
ハリ二名共ニ一彈丸ヲモ射發スルナク又其
隊中ニ在リタル事ノ外其隊ノ目的ト志ヲ同
ウシタルノ証ナク且ツ一名ハ法教ヲ用向ヲ務
ムルノ外更ニ他意ヲ懷キ又一名ハ新聞ヲ書記

スルノ外更ニ他意ヲ狭ミタルノ証ナシト雖モ
英國ニ向ヒ戦フタルノ罪ヲ被リテ二名共ニ死
刑ヲ言渡サレ然ル後更ニ其刑ヲ輕減シテ二十
年間繫獄ノ刑ニ處セラレ方今ニ猶獄中ニ在ル
可コト思ハル蓋シ此一事ハ千八百六十七年又
シ千八百六十八年ノ米利堅外國交際往復書翰
編輯書第一卷第百九十三葉ニ詳カナリ
予思ヘラク今「フアルモサ」ニ赴ク兵又ハ其一部
現ニ戦ヲ為サハ其兵ニ附属スル米國人ハ其職
分如何ヲ問ハス皆兵籍ニ入リテ戦ヲ為ス者

ト者做ス可シ而シ又前ニ記シタル法ノ文面ニ
附キ米國ト相和スル國ニ向テ戰フノ一事ヲ論
スルニ固トフアルモサノ生蕃ハ支那人ノ如キ
開化セシ民ノ多分ニ住居セル島ノ一部分ニ由
據スル者ニシテ敢テ國ヲ為ス者トハ稱シ難ク
右生蕃ハ想フニ其穩静ナルト騷動スルトヲ問
ハス島中ノ開化セシ部分ヲ取リテ之ヲ所領ト
為ス帝^后臣下タル可ク予カ臆説ニテハ右生
蕃ハ縦令國ト稱スルヲ得可キモ一箇ノ外國ト
者做ス可カラズ各狭小ノ領地内ニ於テ拙粗ナ

ル政ヲ設ケルト雖モ皆支那ノ保護ヲ受ケ支那
ノ行ハント欲スル管轄ノ下ニ屬シタル附庸人
種或ハ社中ナリト者做ス可キナリ

亞米利加合衆國內ノ土人ニ於ケルモ亦之ト同
シク規律ヲ以テ論スヘカラス其間柄ニストル
ホウイトンノ(書第一部二篇十四章ニ見エ)言ハ
ル如シ曰ク如主ノ後見人ニ於ケルト恰モ相似
タリ亞國ノ兵ヲ用フル至意ハ土人ヲシテ後順
ナル人タラシメント欲スルニ在リ實ニ土人ト
合衆國ノ兵ト戰常ニ絶ヘス然レモ誰アリテ土
人ハ合衆國ノ民藉ニ非ス合衆國ノ支配ノ者ニ
非スト思ハシ又誰アリテ外國ヨリ土人ヲ侵伐
シタラシニハ合衆國必ス之ヲ以テ合衆國ニ兵

ヲ加フルノ所業ニ非スト為スヘシト思ハシ
右ノ理ニ由テ之ヲ推セハ合衆國モ屢土人ノ入
寇ニ苦シメラレ兵ヲ出シテ之ヲ追討スルニ方
リ妄リニ隣邦へ進入スヘカラサルナリ故ニ北
邊ノ土人合衆國ノ兵ニ追ハレ國境ヲ踰ヘカ
ダ境内英國兵卒ノ居ラサル荒漠ノ地へ遁逃ス
ルエト往々コレアリ是時ニ当リ亞國政府ヨリ
之ヲ追テカ^ナダ境内ニ兵ヲ進ムルノ許ヲ英國
ニ請ヒケレトモ其許ヲ得サレハ已ムエトヲ得
ス合衆國ノ兵隊ハカ^ナダ境外ニテ止マリヌ

又南邊墨是可トノ境上ニテモ亦然リ墨是可ト
合衆國ノ境ニハリヲグラレドト称スル長江迂
曲シテ流ル墨是可領内ノ土人屢入寇シ合衆國
ノ邊境ニ任ム者ノ牧羊牛ヲ掠略シ追ハルレハ
リヲグラレド河ヲ渡テ去ル墨是可合衆國ノ兵
ヲ許シテ河ヲ渡ラシメヌ又土人ヲ制シテ侵掠
ノ事ナカラシムルニ足ルノ兵ヲ此邊境ニ備フ
ル能ハサルヲ以テ土人却テ其罪ヲ免ル
余聞ク支那政府ニテ臺灣ノ土人ニ就キ次條ニ
掲クル所ノ説ヲ為セリト下文ハ即チ亞墨利加

公使ミストルウレム支那文ヲ翻訳シテ英國
公使ミストルウレム寄示シタル者ナリ以下
日本ノ公使副島去年北京ニ在リシ時臺灣ニ兵
ヲ向ケ其東岸ニ上陸シテ土民ヲ齎懲スルノ事
ニ就テハ曾テ外務ノ官人ト議スルコトナク又
我未タ曾テ何ヲ以テ日本兵ヲ用フルトイフ理
ヲ告クルノ一使ヲ受ケサルナリ然ルニ此ノ如
キ土人モ總テ支那版圖内ニ在レハ支那ノ管轄
ヲ受クル者又其風習ヲ撓メ巖ニ我政法ヲ守ラ
シメサレトモ其住ム所ノ地ハ固ヨリ中國ノ一ノミ

是土民ト其地ニ就テ支那ノ着目スル所ニシテ
余ヲ以テ之ヲ考フルニ先ツ支那ノ許シヲ待タ
スシテ兵ヲ臺灣ニ遣リ之ヲ上陸セシムルニ就
キ支那ニテ日本ヨリ兵端ヲ闕クト看做スハ理
アリト謂フヘシミストルウレドメン(書第一
篇ノ六十五六葉ニ見ユ)曰ク兵ハ戦争ノ上ニテ
許ス所ノ外他國ノ君主ノ意ニ逆ヒ其版圖内ニ
進入スルヲ許サスト
和親條約國ニテ互ニ外國人ノ其領内ニ入ルヲ
許ストモ此ニ由テ兵ヲ入ル、ヲ許スト為スヘ

カラス兵ヲ他國君主ノ領内ニ進ムルハ即チ兵
端ヲ関クノ所業ト看做シテ當然トス引以上
セ子ラルハレツク(國際法九十六葉ニ見ユ)曰ク
各國其版圖ヲ犯サレサルノ權アリ兵ヲ他國ノ
版圖内ニ進ムルハ兵端ヲ関ク所業ニシテ其國
兵ヲ以テ撃テ之ヲ卻クルモ可ナリ是レ一定ノ
論ナリト而シテ又曰ク近隣ノ國ニ根據シテ四
出シ海賊ヲ業トスル民ノ為ニ苦メラル、國ハ
手出シスヘカラス唯自ラ防キ自ラ守ルノミナ
ルカ決シテ然ラス近隣ノ國此ノ如キ民ノ侵寇

ヲ制止シ此ノ如キ根據ヲ壓倒スルニ意ナニカ
或ハカナキ時ハ害ヲ蒙ルノ國境界ヲ踰エ其禍
根ヲ撲滅シテ可ナリ然レモ其所業ハ兵端ヲ関
クノ業ニ非サルハナク但シ名アリテ兵ヲ出ス
ナリ只自ラ防キテ和親ノ義ヲ守ル者ニハ非ス
ト此他引クヘキ証例アリ其主意皆之ト同シ
余ヲ以テ之ヲ見ルニ千八百六十年ノ條令ヲ推ス
トキハ亞國政府ニ對シテモマタ其法ノ重シム
キヲ知り自カラ其主意ヲ服膺スルト思フ人ニ
對シテモミストルベンガムハシ洛度ナシト

ス
余惟フニ合衆國局外中立ニ分テ守ルル
テモ之レカ為リニ日本居留ノ亞人ヲ制シ
テ日本ニ雇ハル、一ヲ禁スル至意ハアラ
サルヘシ若シ此ノ如キ法ヲ無益ニ設
施シテ不條理ナル事アラハ其過チハミ
ストルベンガムニ歸セスシテ合衆國政府
ニ飯スヘキナリ又國際法ニヨリテモ取結ビ
タル條約ニヨリテモ日本政府ハ其戦争未タ
起ラサルノ前日本ニ雇ハレテ日本ノ支配

ヲ受クル亞人ニ對シ強テ千八百六十年ノ法ヲ
行フニ及ハス又米國ヨリ之ヲ行フヲ日本ニテ
怒ルスニ及ハス又日本政府ハミストルベンガ
ムノ議論ニ循フニ及ハサル所ナクミストルビ
ンガム若シ自ラ其論ヲ至当ナリト思ハハ亞國
軍艦ノ主將ニ命シ大洋ニ於テ合衆國ト和親ナ
ル國ヘ戦争ニ赴カントスル亞艦ヲ路ニ要シ威權ヲ
以テ其中ノ亞人ヲ執ヘシメテ然ルヘキナリ然ルニ今事西
政府ニ關係スルヲ以テミストルベンガム一船ニ乗込テ居ル
亞人ヲ執フルヲ得ス蓋シ之ヲ為スハ戦争上ノ所業ナレハナリ

第二

前文ニ述フル所ノ数事ハ第二ニシテ 其次ノ件々
ノ答ト為ル者ナリ 抑持派全權ノ師ヲ出スニ別
段具仔細ヲ明告スルヲナキハ余ノ全ク解ス能
ハサル所ナリ 兵隊式日練兵ノ為ニ外国ヘハ行
クヘカラス蓋シ兵ヲ用フルハ出兵先ニテ随分
アルヘキトイフ意味含ミテ其中ニアリ全權委
任ノ使者共ヲ帯ビテ上陸セハ之ヲ看テ銃ヲ執
ルノ兵士ノ如ク戦フ者ニ非ストハ謂ハサルヘ
シ兵士曾テ銃ヲ散セサレトモ誰々其銃ヲ發ス

ルヲ待テ而後敵ナリト目ヤニヤ日本ノ全權總
督及ヒ総督ノ補佐タルゼ子ラル、レゼンドルニ
於テモ猶然リ且ゼ子ラルレゼンドルノ身分ク
ルヤ其言フ所ヲ以テ判断スルヲ得其言ニ曰ク
ステームレップアコムマンドルカーペルトリウチ
ナニトウハソシハレゼンドルノ指揮ニ從フト又
曰クステームレップアコムマンドル、カーペルハボ
ニタニ部落ノ近傍或ハ其境内ニ全權使節上
陸スルニ宜シキ場所ヲ見出ス為メ臺灣島ノ東
岸ヲ探索スルヲ以テ任トスト又曰クボニタン

人必ス最初ハ兵端ヲ開クヘシト思ハル、仔細
アレハ其襲撃ニ備ヘカドバト、護衛トシテ海
軍兵隊五十名ヲカールペルニ附属スト是レ、スチ
ムシツプロニマンドルカールハゼ子ラルレ
ゼンドルノ指揮ニ從ヒボインタ人ノ襲撃スル
ヲ知テ之ヲ拒ム任ノ者ナリ余ヲ以テ之ヲ考フ
レハ是レボインタ人ニ對シ戦争ヲ為ス陸軍カ
海軍ニ從事スルナリ若シ余カ推察ノ如ク支那
ニテボインタ人並ニ其地ヲ支配スル權アリト
謂ハ、亦支那ニ對シテ戦争ヲ為スト謂フキ

ナリ

亞國水師提督ノ最初スチムシツプロムマン
ドルカールペルニ達シタル令ハ全ク此事ニ關係
シタル者ト省サル者ニシテ蓋シカシモボインタ
ン人ト行違ノ事アルヲ熟知セステ出シタル
ナリリウテナントウハツンハ如何ナル勤ヲ為
スカ余未タ聞カサレ氏是レ亦何レ其出師ヲ助
クルヲ推シテ知ルヘケレハ何レニシテモ化人
ト同様ノ規律ニ罹ルナリ

第三

臺灣土人へ全權使節ヲ遣ス主意ミストルビン
ガムニ寄セタル書中ノ意如クナレハ支那ノ
許シクル上ハ韓鮮スルヲ得ヘシト思ハル然ル
ニ支那ノ許諾ヲ問ハスレテ為シタルハ是レ戰
ヲ布告セスレテ兵ヲ出スナリ
今日日本ノ為ス所ト千八百六十七年ニ英國ノ
為シタル轍ト異ナル所何ニアルト問ハシ英人
ノ為シタル事跡ハ千八百六十七年ノ亞米利加
ギアロマケツクゴルレスポンドンシ書中ニ大
トルアルレンカミストルセウバルドニ送りケル

文ニ見ユ(一千八百六十七八年)ギアロマケツク
クゴルレスポンドンシ第一冊四百九十九葉ヲ
見ヨ又千八百六十七年ニ海軍秘書官ノ同年ノ
報告書中ニ記載スル亞米利加人ノ為シタル事
跡ト異ナル所何ニアルト問ハシ
甲ノ異ナル所ハ左ノ如シ英人ノ為ス所英國政
府ノ意ニ出タルニ非ス領事官ト蒸氣軍艦ノ主
將ノ所為ニシテ此等ノ官人ノ為ス所ハ其政府
ノ命シタルニ非サレハ支那ニシテ議論ヲ起シタ
ルハ英國政府之ヲ言ヒ消スヲ得タリ又乙ノ異

ナル所ハ左ノ如シ英國士官等難船シタル亞米
利加船乗組人猶命アルコト見ルモトヲ得サ
レハ收賧金ヲ也シテモ~~レ~~ヲ援ケント為シタル
ナリ固ヨリ野蠻ニ對シ兵カヲ用ヒント欲シタ
ルニ非ス然ルニ野蠻不意ニ樹林中ヨリ英人
ニ放射シタルヲ以テ英人自ラ防ク為メニ兵力
ヲ用ヒレノミ
水師提督ベルノ臺灣ノ野蠻ヲ無益ニ征討シタ
ルハ其報告書ヲ以テ之ヲ見ルニ千八百六十七
年六月十三日ナリ

千八百六十七年六月二十日ニアマリカ外務
宰相セワルド~~君~~リ支那在留ノ公使バルリンガ
ム君へ差圖書ヲ送致シタルモノアリ「交際上文
通書ノ中千八百六十七年八年ノ條第一卷四百
九十八面ニ刷印シタリ又其殘酷ノ所行アリシ
他方ニ於テハ支那ノ政府ノ立ツ事或ハ奉セラ
ルハ事ノ有無及ヒ多クヲ取調ヘモシ果シ支那
ノ政府コ、ニ在ルニ於テハ成ルベキ丈ノ償
取リ且、探索ト責罰ヲ之ニ責、ントノ事ニテ
バルリンガム君其取調ノ命ヲ受ケタリ此等ノ

實事

實ニ據ルトキハ其征討ハ本国政府ノ允許ナク
シテ為シタルト明カナリ
若シ確定シタル政府ナクンバ何様ノ方法ヲ用
キテ償ヲ取り且ツ後來是等ノ所行ヲ豫防スベ
キヤ請フ汝チ我レニ告ケヨ

臺灣ノ生蛮ノ支那改令ヲ奉セズト云フイテ
ドミラールベルノ支那官員ヨリ證知セシトハ
證拠ナシ

海軍ノ宰相ノ言フ所ハ左ノ如シ 初メコンマ
ンドルヘビゲルノ臺灣府ニ到着ノ折リ

官弁解シテ曰フ其犯罪人ハ罪ヲ正シカメ本
ト夷狄ノ一群ニ屬シテ能ク支那ノ法律ヲ守ラ
ズト按スルニ法律ヲ守ルベキノ分ト其分ヲ能
ク尽スト此二事ハ互ニ異ナリテ同シカラズ

第四

トトヒアドミラールベルノ臺灣侵入ヲ論シテ戦
ヲ支那ニ為スニ當ルトナスハ猶可ナリトモ之
ヲ國會カノ先准ヲ經シモノトナシ、其理
ナシアドミラールノ職ニ任スル者遠ク本国ヲ離
レテ他國ニアルトキハ其法ヲ破ルル必シモ然

シトセスセワルド君ヨリバルリンガム君へ
差圖書千八百六十七年日附ケ第二百十三号(交
際上文通書千八百六十七年八年ノ條第一卷第
五百七面ハアドミラルベルノ大統領ヨリ許可
ヲ蒙リシノ証拠トシ其議論ニ付キ引用シタル
ニ右様ノ夏ハ一モ挙クルトナシセワルド君ノ
アドミラルベルノ言上書ヲ引ケルト尤ノ如シ
予以為ラク北京ノ政府アメリカ等ノ諸国ノ公
使ニ勸メラレテ東海岸及ヒ南部ノ諸村諸湾ヲ
皆領スルニイタリ土蛮ヲ駈テ嶋ノ内部ニ帰ラ

シムル迄ハ野蛮ノ暴行ヲ永ク禁止スルア
ズトセワルド君此言ヲ引ケル後ニ又曰ク
汝チ(バルリンガム君)北京ニ在ル西洋諸国ノ公
使ト謀リ之トカヲ合セモシ成ルバシハ懇クニ
支那皇帝ニ説キテアドミラルベルノ建議ヲ用
ヒシムベシ是レ大統領ノ願ヲ所ナリト思フニ
大統領ノ喜シタルハアドミラルベルノ命ヲ
受ケズシテ恥ツヤキ小戦ヲ行ヒタル事ニハ
ラズシテ乃チ其建議ニシテ支那ノ政府ヲシテ
土蛮ヲ駈テ内部ニ入ラシメントセシ事ヲ喜シ

クルナリ上文ニ言フ所ハアメリカ政府ヨリ臺灣土臺見テ支那管轄中ニアリトスルノ証トナスベシ

アドミラルベル 襲撃ヲ支那ノ之ニ異議セサルハ別ノ証トサラズ唯其頑固ナル人民土臺ヲ外國人ノ襲撃セルヲ別段ニ怒ラサルノ証トナリ又外國アメリカニ餘ノ志ナキニ安シタルヲ證スルノミ蓋シ其外國アメリカハセワル
君ヲ以テ公告シテ曰ク合衆國ハ決シテホルモヤ又ハ其一部ヲ取テ領ヤント願ハズトハ

リ思フニ支那ハ合衆國ヲ除イテ他國ト示テスルニハ其説モ之ト異ナリ其処置モ之ト殊ナリシナラシ他國トハタトヘハイキングランドノ如キ香港ヲ取リ領シテ鴉片密賣ノ便利ノ場所トスルモノヲ云フナリ勿論支那ハ一時別段ノ事情アルニヨリテ異議ヲナスノ権ヲ行ハサリシトモ後來時宜ニヨリテハ其権ヲ行ハントヤシナリ

第五

第五ノ問題ニ付テハゼ子ラールレゼンドルヨ

リバルリニガム君エノ報告書(交際文通書千八百六十八年九年ノ條第一卷第五百五面)ノアルアリ之ニ據ルトキハレゼンドルノ臺灣ニアルヤ支那ノ大将レウニ属スル五百人ノ軍勢之ニ陪従セリ○其報告書(第五百七面)ニ云フ支那大将レウヨリ布告ヲ出タシ其任ゼラレル事件即チクローツツ人ノ前ニアメリカカ小船ローズル号ノ水夫ヲ殺セルヲ以テ今之ヲ殲サン事ヲ達シタリト又云フ一ノ城砦ヲ建テン事ヲゼラシラシルビゼンドルヨリ望メリ從前其地支那ノ

権ナシトスルノ既ニ久シキニ今其権ヲ張ルニ由ルナリトレゼンドルノ望ミ成就シテ一城砦建築アリ其形チ圓キ圍イニシテ椰子ノ木ト土豚ヲ以テセリ此内ニ大炮三門ヲ据ヘ上ニ支那ノ旗ヲ翫カシタリサレハ支那其權威ヲ張リシ仕方ハゼラールレゼンドルノ充分ト思ヒシ所ニ從ヒテナセ

ゼラールレゼンドルト酋長チユケトツクトノ評議ニ支那大将レウノ預テザリシハ自ラ其政府ノ權威ヲ捨タルモノニアラズモシレウ氏

子エケトツクノ軍士ノ降參生擧、取替ノ如キ
其征討ニ付キ癸スル軍事ヲ除テ外他ノ事ニ付
キチエケトツクト商議セントセバ則チチエケ
トツクノ党ヲ以テ嚴然タル一國ニシテ支那政
府ト互格ノ條約ヲナスニ足ルモト認メシナ
ランノアメリカノ領事官其事ヲナスベキ明白
ナル權ナク何等ノ權ヲ挾ミ合衆國ニ代リ我等
ハ既往ノ事ヲ忘ル、ヲ好マザルニアラズト言
ヒシヤ是ハレウ氏モ憚ル所アリテ支那政府ニ
代リ敢テ言ハザリシナラン

是等ノ議論ハ千八百六十九年間合衆國ノ貿易
上ノ事ニ関シ別ニ書付ニ通アリ是ハ今年元ニ
ナケレバ之ニ付キ説ヲ言フニ由ナシ

第六

第六ノ問題ハ地理歴史ノ事ニ関スレ予之ヲ
知ル一極メテ少ナキヲ以テ一説ヲモ言フ能ハ
ズ

第七

予思フニアメリカ公使ノ異論ニ付テ推考スル
ニ蓋シ公使ノ意ハ千八百六十年ノ國會ノ決議

ニ從ヒ且ツ合衆國ノ支那ニ於ケル義務トスル
モノヲ予ラントスルナリ

第八

予カ説ニハ日本ノ蒸気船ニウヨルク号ヲ雇フ
ハ現今ノ條約面ニテハ合衆國ノ權利ヲ聊カ犯
スナク又英國ニ對スル義務ニ至テモ總ヘテ
只所ナシ

大統領ピエルズ千八百五十四年十二月、クリ
ヤ戦争ノ間國會ヘノ報告書中ニ合衆國ノ説ヲ
挙ゲタル事左ノ如シ合衆國ノ人ノ戦争スル國

々ノ中ニ禁制ノ軍用物ヲ賣リ或ハ其私有ノ船
ニ軍用物ヲ載セ或ハ兵士ヲ載セテ運漕セント
スルハ合衆國ノ律ニ之ヲ禁ゼズ勿論是等ノ所
行ハントキハ其当人ハ私有物ト身体ヲ危ウシ
戦争ノ難ニカ、ラントアリト虽モ國ノ局外中
立タルニ害ナク又政府ヲシテ累坐セシムルナ
シ故ニ現今エヲロツバノ戦争中我々國人タ
ルモノハ合衆國武裝等ヲ賣ルニ其買主ノ何人タ
ルヲ論ゼズ又其行ク處ノ何處ナルニ拘ラズ凡
テ之ヲ賣ルトモ國其責ニ任スルナシ

我カ商人、大英并ニフランスニ雇ハレテ兵隊
兵糧武器等ヲ戦争ノ本拠ニ送致シ且ツ兵士疾
病アル者ト痲傷ヲ蒙ルモノトヲ連レ帰ル者甚
ク多クシテ皆元ノマ、雇ヒ続キニナリタリ然
レモカク海上ノ商人ヲ使用スルハ万国公法ヲ
論スルニ我カ國法ヲ論スルモ決シテ禁制ノ更
ニナラズウエートン(第四ノ部分第三篇)ノケ局
外中立者ノ船ヲ用ヒテ戦争者ノ軍勢ノ運漕船
トナスニ若シ戦争ノ相方ニ拿捕サル、寸ハ
没収サルベシトトモ其事實暴力ニ逼マラレテ

其戦争者ノ用ヲ勤ムル者タリモ其責ヲ免カル
ベカラズ而シテアメリカ人タル者本國ノ政府ノ
保護ヲ頼ムベキノ權ナク自ラ好シテ其船ヲ危
難地ニオキ拿捕ノ患ヲ招ク者ハ政府ニ之
ヲ禁ゼズ勿論アメリカ人ハ禁制ノ人ト物トヲ
運漕スルノ權アレハ戦争者モ亦是人ヲ雇フノ
權アリ
予思フニベンガム君ハ上ニ挙ケル大綱領ニハ
同意ナリ然ルニ戦争既ニ始マル後ニ兵隊ヲ運
漕スルト兵隊ヲ運漕シテ戦争ヲ始メントスル

トノ差別ヲナセリ彼ノ説ヲ責ハサルニアラズ
ト虫波ニ同意シカク又其差別ハ大切ノト
思ハレズ

第九

第九ノ問題ハ前ノ説ニテ充分ニ明クナリ

第十

予前ニ既ニ説ヲ述フルカ如ク合衆國ノ人モ
其日本ニ雇入レノ事臺灣遠征ノ前未タ是役ニ
用フルノ意ナキ時ニアラ者ハ日本ヨリ之ニ付
テ必シモ千八百六十年ノ法ヲ守ルヲ要セス

邦交ノ礼儀ノ事ニ至テハ尤ノ如クナルベシ
日本ニ在ルアメリカ人合衆國ト和親ノ国ニ
戦争ヲ為スヲ助ケザランコトヲ願フ一ハ千八百
六十年ノ決議ヲ以テ明白ニ示シタリ又、メリ
カ人ノ支那ニ戦争ヲ挑ムハ別ノ國ニ戦争ヲ為
スヨリモ合衆國ノ殊ニ之ヲ禁スルハ其所以種
々アリ其第一ハ千八百五十八年合衆國ト大清
帝國ト取結ヘル條約書ノ第一則ニ曰ク他國モ
シ不公平暴虐ノ行ヒアラハ合衆國其事件ヲ聞
タル上ハ信義ヲ尽シテ其事件ヲ安穩ニ治ムベ

シト依テ予思ヘラク其事ノ結末合衆国ノ心配
ヲオコスベク遠征ニアメリカ人ヲ遠サケルハ
礼儀ノ度ヲ過クト謂フベカラズ又アメリカノ
海陸軍ニ隷スル人ヲ用フルニ至テハ殊ニ合衆
国ヲシテ苦シメ支那ニ之ヲ弁解スルニ至ラシム
ベシ

第一

ビンガム君ノ異論ヲ出セルニ随テ反駁ヲ出サ
レシヤ吾予之ヲ言ヒガハシ然レモ思フニ箇様
ノ駁議ヲ出スモ益ナカルベシ是政府ノ方法ヲ

致ケビンガムヲ進メ其処置ヲ再考セシメズシ
テ唯至当ト思フノ処並ノナシテ可ナリ予カ思
フニ何等ノ処置ヲナスニ拘ハラヌ又何等ノ書
付ノ取ルニ拘ハラズ凡テ是政府ノ事ヲ決スハ
ビンガム君或ハ他ノ公使ノ不在ニ乗スルナリ
ト世人ヲシテ思ハシムベキトハ大ニ恥ツベキ
トナラン

アメリカノ国人ニ至テハ其永久ノ職分ハ即チ
是ノ政府ヲ守ルニ從フナリヤ抑又ビンガム君
ノ説明カセル通り合衆国ノ法律ニ從フベキト

ナルヤ必ラズ曾テ交ニセシナラン但シアメリカ
人ハ其事ヲ成スモ或ハ其更ヲ誤ルモ必ラズ
日本政府又ハ合衆國政府ノ審判ヲ受クベシ而
シテ彼等必ラスニ君ニ仕ヘルノ難キヲ覺ヘン然
レモ彼等ハ我々助言ヲ請ハズ我々今日ノ晚キ
ニ至テ好ンテ自ラ之ニ助言ナルノ意ナシ謹呈
イ、ペレシーヌ、ス、

外務卿

寺島宗則君 謹